



踊る側も、沿道で応援する側もパワー全開



風にゆらめく七夕飾りをバックに路上パフォーマンス



猛練習の成果が実り、パレード部門、ダンスバトル部門ともに、昨年に引き続き見事優勝。「最高にうれしいです！」



まず自分たちが楽しまなきゃ。それを見て何かを感じてもらえれば。



安城七夕まつりを楽しむ会幹事
としゆき
杉山 敏幸 さん
(桜町/42歳)

七夕まつり会場の西の入り口、みゆきワイワイ広場のイベントや模擬店などの企画運営や空地飾りの制作をしている「安城七夕まつりを楽しむ会」。3年前、「自分たちがまずまつりを楽しもう」と、杉山さんの呼びかけで集まった有志7人で会を結成。現在は、活動を通じて輪が広がり、市外の人も含め約30人ほどのメンバーで活動しています。

「今でも『七夕まつりは商店街だけでやっているんじゃないでしょうか。それは違います。すでに、市民独自の動きが出てきているんです。見るだけでなく、参加



みんなで協力して七夕飾りを製作

「今でも『七夕まつりは商店街だけでやっているんじゃないでしょうか。それは違います。すでに、市民独自の動きが出てきているんです。見るだけでなく、参加

するまつりへ。傍観者ゼロを目指したいですね。」
まさしく市民総参加への第一歩。「まあ、お祭り好きが集まってワイワイ楽しくやってるだけです」と照れながら話してくれました。

まちはわたしたちのステージ。緊張するけど気合と元気を見てほしい。

およそ100人の部員数を誇る安城学園高校ダンス部。3年生27人のうち市内在住の9人が、七夕まつり直前の7月24日、ステージにかける意気込みを話してくれました。

角さん。ジャズチームのリーダーを務める三浦さんも、「りんごあめを食べて歩くのも楽しいけど、大勢の人が見てくれるステージで踊るのは最高。見に来てくれた人たちも一緒に盛り上がりたてくれるとうれしいです」と話します。「見に来るだけの七夕まつりが、見られる側に。たくさんの人にってもらえる数少ないチャンスです。まつりに参加している実感がうれしいです」と話すメンバーの笑顔はキラキラ輝いていました。



全年齢そろっての全体練習にも熱が入る

ス部。これからも、七夕まつりなどを通して、まちの皆さんとの交流を大切にしていきたいです」と話していました。



「Dan Spo ANJO」ほか七夕まつりのステージに出演

安城学園高校ダンス部

- 前列左から
三浦沙織さん(横山町)
神谷望美さん(尾崎町)
三枝葉子さん(宇頭茶屋町)
- 中列左から
田崎めぐみさん(百石町)
門あさ美さん(横山町)
岩崎裕子さん(二本木町)
- 後列左から
手嶋茜さん(大山町)
角映視子さん(二本木新町)
緒方愛夕さん(古井町)



みゆきワイワイ広場のステージでは様々な催しが行われ、大勢の人々が楽しんだ



飾りの空地を埋めるために、楽しむ会の皆さんが中心になって作りあげた見事な飾り。「空地と呼ぶのは寂しい。フリースポット(自由に飾れる場所)と呼んでいます」



4年前、「まつり会場への入り口の一つである花ノ木町公民館周辺に飾がないのは寂しいね」と始めた市民参加による竹飾り。「夢まつり企画人」の活動は、そこから始まりました。

写真の皆さんが中心となり、その後も市民参加の七夕まつりをめざして、様々な試みが行われています。平成12年には碧海信用金庫本店の駐車場を活用した市民参加型のイベ

ントの拠点「市民スクエア」を発売。会場中央に位置する休憩スペースにもなっています。また、前ページの額飾りづくりも企画人が間に立って、実現したものです。そんな一連の活動が大きく実を結び、平成13年には、まつりを主催する七夕まつり協賛会の中に「市民部会」が発足しました。

「わたしたちは、あくまで参加者と受け皿をつなぐコーディネーター。本当に頑張っ

ているのは企画に賛同し、参加してくれる皆さんです」と謙そん気味に話すメンバーの皆さん。「『とにかく楽しく』をモットーに活動してきました。今までのまつりの伝統を守りつつ、みんなで新しいことに挑戦していきたい。メンバーにもそろそろ新しい力が欲しいですね。年中七夕まつりのことを考えている。そんなお祭り好きのかた、一緒にやりませんか」。

参加者と受け皿を引き合わせているだけ。頑張っているのは参加者の皆さんです。



ネットワークを作りながら市民参加型のイベントを仕掛ける市民グループ

夢まつり企画人

- 前列左から
 山本範枝さん（御幸本町／39歳）
 松岡芽以子さん（横山町／安城南中2年）
 亀井田津代さん（桜井町／27歳）
 旭多貴子さん（今池町／54歳）
 後列左から
 巖谷文一さん（姫小川町／36歳）
 石川しげ美さん（堀内町／52歳）
 矢羽々みどりさん（篠目町／55歳）



市民スクエア内のフォトスポット。人気アニメの主人公たちと「パチリ」



市民スクエアは気軽な無料休憩場所として大人気。周辺にはボランティア団体などによる様々な店が並び、楽しい雰囲気に包まれていた

桜井小6年3組の子どもたちも飾り付けに参加。プラスチックトレイや牛乳パックなどの廃品を利用したユニークな飾りも



作業は楽しく、そして真剣に



「できたよ！わたしたちの額飾り」

安城東部小学校で4年前から始まった「七夕額飾り」作り。戦前、この地域の小学生が作っていた額飾りを今の子どもたちにも知ってもらおうとともに、七夕まつり会場に飾って来場者にも見ってもらおうと、地域のお年寄りを講師に招いて、伝統行事の復活に取り組んでいます。まつりの1か月前の7月3日に、6年生63人が8つのグループに分かれ、思い思いの額飾りを作りました。その指導者の一人が細井さんです。

「昔は、歌舞伎の名場面などが描いてある下絵を買って、

それを切り抜き、木枠の中に飾っていました。今の子どもたちは、下絵や設計図を書く作業もあるので大変ですね」と話す細井さん。

作業は、細井さんらの指導のもと順調に進み、約3時間でほぼ完成型に。「みんなで楽しく作業をしたことが思い出の一つになれば。こうした子どもたちとの触れ合いの中で、少しでも郷土の伝統を伝えられたらうれしいです。七夕まつりが、子どもたちにとってこれからも楽しいまつりであってほしいですね」と細井さんは話してくれました。



竹組 生駒大貴くん

みんなで考えて作りました。苦勞して作った「花火を持っている人」を特に見てもらいたいです。きれいな竹飾りと一緒にぼくらの額も飾ってもらえて、すごくうれしいです。



「額飾り」とは、芝居の舞台を小さくしたような人形飾り（ジオラマ）のこと。出来上がった額飾りは、まつり会場内の碧海信用金庫本店の展示スペースに飾られ、来場者の目を楽しませた



伝統的な七夕飾りである「額飾り」づくりを子どもたちに手ほどき
 細井 平司 さん
 （大岡町／82歳）

七夕の伝統を伝えるお手伝いができてうれしいです。

花火や屋台の様子を再現してみました。かき氷やポテトを食べることが七夕まつりの楽しみだったけど、今年は多くの人に額を見てもらえるのもすごく楽しみ！

松組 青島聡子さん

